

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第72期第2四半期(自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)

【会社名】 名糖産業株式会社

【英訳名】 Meito Sangyo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 水谷 彰 宏

【本店の所在の場所】 名古屋市西区笹塚町二丁目41番地

【電話番号】 052(521)7111

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 山崎 潔

【最寄りの連絡場所】 名古屋市西区笹塚町二丁目41番地

【電話番号】 052(521)7111

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 山崎 潔

【縦覧に供する場所】 名糖産業株式会社 東京支店
(東京都府中市日鋼町1番22号)

名糖産業株式会社 大阪支店
(大阪市福島区福島六丁目13番7号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第71期 第2四半期 連結累計期間		第72期 第2四半期 連結累計期間		第71期	
		自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
会計期間							
売上高	(百万円)		8,524		8,366		19,216
経常利益又は経常損失()	(百万円)		166		17		31
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失()	(百万円)		348		5		47
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		1,024		1,208		2,480
純資産額	(百万円)		29,846		34,273		33,378
総資産額	(百万円)		41,112		46,761		45,850
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)		20.72		0.33		2.85
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		72.1		72.8		72.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		1,043		1,045		1,888
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		97		20		94
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		1,488		1,400		1,357
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		1,510		2,113		2,488

回次		第71期 第2四半期 連結会計期間		第72期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日	自 至	平成25年7月1日 平成25年9月30日
会計期間					
1株当たり四半期純損失金額()	(円)		16.11		0.91

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第71期および第72期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
第71期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却と経済再生を目指した国の経済政策や円安などにより、輸出関連企業を中心に企業の景況感が上向き、景気回復の動きがみられました。しかし、高額品などに対する消費者マインドが持ち直し傾向にある一方で、素材価格の上昇や海外景気の動向など、企業を取り巻く環境には、依然として懸念材料が残りました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、消費者の根強い節約志向により企業間の低価格競争が激化するなかで、円安による原材料価格やエネルギーコストの上昇などが収益を圧迫して、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上のため品質管理体制の強化に引き続き注力するとともに、お客様の要望にお応えできる高付加価値商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を推し進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて1.9%減の8,366百万円となりました。営業損益につきましては、事業活動の効率化やコストの削減に努めましたが、売上高の減少などにより464百万円の損失となりました。前年同期は422百万円の営業損失でありました。また、経常利益は営業外収益の増加などにより17百万円となりました。前年同期は166百万円の経常損失でありました。これらの結果、四半期純利益につきましては5百万円となりました。前年同期は348百万円の純損失でありました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

食品事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、主力の菓子部門は消費者の嗜好品に対する節約志向が根強く、厳しい企業間競争が加速して減収となりました。チョコレート類は、主力の「アルファベットチョコレート」は売上を伸ばしましたが、PB（プライベートブランド）商品が前年同期を下回り、減収となりました。また、キャンディ類の売上も減少しました。

粉末飲料部門は、企業間の販売競争が激化するなかで、主力の「レモンティー」や「ロイヤルミルクティー」などが苦戦を強いられ、減収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、新商品を投入して売上の拡大を図りましたが、減収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、需要を喚起するための積極的な商品提案や販売施策に取り組みました結果、ゼリー類は好調に推移しましたが、主力のバウムクーヘン類が苦戦して減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ3.7%減の7,175百万円となりました。営業損益につきましては、売上高の減少や売上原価率の上昇などにより、192百万円の損失となりました。前年同期は93百万円の営業損失でありました。

化成品事業

酵素部門につきましては海外を主な市場としており、円安の追い風を受けるなか、販路拡大を目指した提案や精力的な営業活動を展開しました結果、チーズ用凝乳酵素「レンネット」および脂肪分解酵素「リパーゼ」はともに増収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料用の「デキストラン」や、MRI（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾピスト』の原薬である「フェルカルボトラン」の減少が影響し、減収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ14.5%増の1,036百万円となりましたが、営業損益につきましては、減価償却費の負担や販売品目構成の影響などにより30百万円の損失となりました。前年同期は85百万円の営業損失でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、昨年12月に持分法適用会社との工場の賃貸契約が終了したことなどにより、売上高は前年同期に比べ7.6%減の155百万円となり、営業利益は前年同期に比べ10.6%減の61百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ911百万円増加して46,761百万円となりました。また、負債は前連結会計年度末に比べ16百万円増加して12,487百万円となり、純資産は前連結会計年度末に比べ895百万円増加して34,273百万円となりました。この結果、自己資本比率は72.8%となりました。

増減の主なものとして、資産の部では受取手形及び売掛金が806百万円減少し、投資有価証券が1,421百万円増加しました。負債の部では流動負債のその他に含まれる短期借入金が580百万円減少し、繰延税金負債が637百万円増加しました。純資産の部ではその他有価証券評価差額金が1,203百万円増加しました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ374百万円減少し、2,113百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ1百万円増加し、1,045百万円となりました。資金の主な増加要因は、売上債権の減少額806百万円および減価償却費670百万円であり、主な減少要因は、たな卸資産の増加額463百万円であります。投資活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ76百万円減少し、20百万円となりました。資金の主な増加要因は、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入794百万円および定期預金の払戻による収入200百万円であり、主な減少要因は、有価証券及び投資有価証券の取得による支出730百万円および有形固定資産の取得による支出278百万円であります。また、財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ88百万円減少し、1,400百万円となりました。資金の主な減少要因は、短期借入金の純減額580百万円、長期借入金の返済による支出457百万円および配当金の支払額334百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は364百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,265,000	21,265,000	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	21,265,000	21,265,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		21,265		1,313		76

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
名糖産業取引先持株会	名古屋市西区笹塚町2丁目41番地	985	4.64
興和株式会社	名古屋市中区錦3丁目6番29号	920	4.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	785	3.70
高砂香料工業株式会社	東京都大田区蒲田5丁目37番1号	753	3.54
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	713	3.35
興和新薬株式会社	名古屋市中区錦3丁目6番29号	640	3.01
株式会社大垣共立銀行	岐阜県大垣市郭町3丁目98番地	600	2.82
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号	453	2.13
東邦瓦斯株式会社	名古屋市熱田区桜田町19番18号	453	2.13
名糖運輸株式会社	東京都武蔵野市中町2丁目4番5号	437	2.06
計		6,742	31.71

(注) 上記のほか当社所有の自己株式4,464千株(20.99%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,464,300		単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,727,200	167,272	同上
単元未満株式	普通株式 73,500		
発行済株式総数	21,265,000		
総株主の議決権		167,272	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ1,800株(議決権18個)および90株含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式95株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 名糖産業株式会社	名古屋市西区笹塚町二丁 目41番地	4,464,300		4,464,300	20.99
計		4,464,300		4,464,300	20.99

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,821	2,246
受取手形及び売掛金	¹ 4,062	3,256
有価証券	785	1,332
商品及び製品	880	1,116
仕掛品	354	320
原材料及び貯蔵品	709	971
その他	274	344
貸倒引当金	20	7
流動資産合計	9,868	9,580
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,054	4,944
その他(純額)	7,065	6,965
有形固定資産合計	12,120	11,910
無形固定資産	81	71
投資その他の資産		
投資有価証券	23,374	24,796
その他	478	477
貸倒引当金	73	74
投資その他の資産合計	23,779	25,199
固定資産合計	35,981	37,181
資産合計	45,850	46,761

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	¹ 1,872	2,290
1年内返済予定の長期借入金	914	914
未払法人税等	27	10
返品調整引当金	7	3
その他	2,419	1,849
流動負債合計	5,242	5,068
固定負債		
長期借入金	1,922	1,464
繰延税金負債	2,784	3,422
退職給付引当金	2,139	2,196
役員退職慰労引当金	16	13
その他	365	321
固定負債合計	7,229	7,418
負債合計	12,471	12,487
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	33,662	33,331
自己株式	8,544	8,545
株主資本合計	26,507	26,175
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,640	7,843
その他の包括利益累計額合計	6,640	7,843
新株予約権	230	254
純資産合計	33,378	34,273
負債純資産合計	45,850	46,761

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	8,524	8,366
売上原価	6,201	6,109
売上総利益	2,323	2,257
販売費及び一般管理費		
販売促進費	910	901
給料手当及び賞与	753	736
退職給付費用	42	93
役員退職慰労引当金繰入額	3	2
貸倒引当金繰入額	0	-
減価償却費	37	30
その他	998	957
販売費及び一般管理費合計	2,745	2,722
営業損失()	422	464
営業外収益		
受取利息	12	11
受取配当金	250	253
有価証券売却益	1	111
持分法による投資利益	37	98
その他	25	43
営業外収益合計	327	519
営業外費用		
支払利息	20	14
固定資産除売却損	21	21
その他	29	1
営業外費用合計	70	37
経常利益又は経常損失()	166	17
特別利益		
投資有価証券売却益	20	-
特別利益合計	20	-
特別損失		
投資有価証券評価損	307	46
製品回収廃棄損	-	10
特別損失合計	307	56
税金等調整前四半期純損失()	453	39
法人税、住民税及び事業税	5	4
法人税等調整額	110	49
法人税等合計	105	45
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	348	5
四半期純利益又は四半期純損失()	348	5

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	348	5
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	676	1,203
その他の包括利益合計	676	1,203
四半期包括利益	1,024	1,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,024	1,208

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	453	39
減価償却費	726	670
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	18	53
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	12
有価証券及び投資有価証券売却損益(は益)	15	111
有価証券及び投資有価証券評価損益(は益)	307	46
有形固定資産除売却損益(は益)	16	21
受取利息及び受取配当金	262	265
支払利息	20	14
持分法による投資損益(は益)	37	98
売上債権の増減額(は増加)	1,134	806
たな卸資産の増減額(は増加)	614	463
仕入債務の増減額(は減少)	238	417
その他	141	228
小計	899	808
利息及び配当金の受取額	263	262
利息の支払額	20	14
法人税等の支払額	98	11
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,043	1,045
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	400	730
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	378	794
定期預金の預入による支出	200	-
定期預金の払戻による収入	300	200
有形固定資産の取得による支出	170	278
その他	4	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	97	20
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	670	580
長期借入金の返済による支出	457	457
自己株式の取得による支出	0	1
自己株式の売却による収入	-	0
配当金の支払額	334	334
その他	26	26
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,488	1,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	541	374
現金及び現金同等物の期首残高	2,051	2,488
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 1,510	¹ 2,113

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	30 百万円	
支払手形	16 百万円	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	1,743百万円	2,246百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	333百万円	133百万円
取得日から3か月以内に償還期限の 到来する短期投資(有価証券)	100百万円	百万円
現金及び現金同等物	1,510百万円	2,113百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	336	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	336	20.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,451	905	168	8,524		8,524
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	7,451	905	168	8,524		8,524
セグメント利益又は損失()	93	85	68	111	311	422

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,175	1,036	155	8,366		8,366
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	7,175	1,036	155	8,366		8,366
セグメント利益又は損失()	192	30	61	161	303	464

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()	20円 72銭	0円 33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	348	5
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は普通株式に係る四半期純損失金額()(百万円)	348	5
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,810	16,801

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月14日

名糖産業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 本 正 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊 田 裕 一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている名糖産業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、名糖産業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。